○院内学級の教員にお願いしたいこと

・学習進度について原籍校の教員と連絡を取り合う。

学習で使用する教科書や教材は、できるだけ原籍校の物を使用するとよいです。そうした取組は本人が原籍校とのつながりを意識することにもなり、スムーズな復学に向けての良い刺激となります。また、原籍校の教員に依頼して、学習プリントやテスト等を送ってもらい、それを使って学習を進めるようにするのもよいです。学級の仲間と同じ教材で学習をしているという実感は、入院による本人の学級からの孤立感をやわらげることにもつながります。

退院時期が評価の時期と重なることが分かったら、その時点で原籍校の教員に連絡を取り、必要な書類の作成等のことも含め、評価の仕方について再度確認しておくと、その後の手続きがスムーズになります。

・本人の体調や精神状態に気を配り、無理をさせないようにする。

教員の立場だと入院中でも、つい学習のことが一番に頭に浮かびがちですが、入院の大きな目的は治療です。学習進度や復学時のことが気になるかもしれませんが、無理をさせないように気を付けることが大切です。

また、本人が学級の仲間との学習の開きを気にして無理をしているような姿がみられたら、本人の学習意欲を削がないように、そして焦る本人の気持ちに寄り添いながら支援するとよいです。

・原籍校との交流について本人や保護者と相談し、実施する。

医師の許可が必要ですが、本人や保護者が望む場合、原籍校の文化祭や修学旅行等、行事への参加に協力できるとよいです。その際、交流としていくのか、一時的に転出入を行うのか、原籍校や保護者と打ち合わせをすることが大切です。特に修学旅行等の泊を伴う活動時には、どちらの学校の管理下での活動なのかなど、しっかりと共通理解を図る必要があります。また、その際の書類作成等、教務の協力も必要なので、早めに連絡を取るようにするとよいです。

日常的な活動での交流も積極的にできるとよいです。学級通信等の基本的な学級の配付物の送付はもちろん、学級からの手紙やビデオ、遠隔教育（原籍校と院内学級を繋いだ授業）等、本人と相談しながら行うことにより、よりスムーズな復学につなげていくことができます。

・関係者（保護者、原籍校の教員、医師、看護師等）と連携する。

本人や保護者の確認は必要ですが、関係者が連絡を取り合い、情報を共有し、連携して本人の支援ができるようにするとよいです。例えば、本人が原籍校の行事に参加する時など、現担任が積極的に関係者に連絡を取り、本人の希望実現のための核となる役割を果たさなければなりません。そのためにも、日常的に関係者と定期的に連絡を取り、いざという時にスムーズな連携ができるようにしておくことが大切です。

また、本人の院内学級での言動で気になったり、変化に気付いたりした時には、関係者との連携を活用し、早い対応に心がけることが大切です。例えば、本人の精神的な不安定さを感じた場合は、病院内の臨床心理士等の専門家に相談するなど、その専門性を活用するとよいです。さらに、本人の急な欠席や授業中の体調不良、日々の連絡等の情報共有の基本的な方法を事前に医療者と確認しておくとよいです。